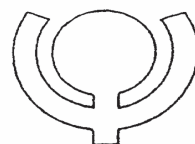


一般社団法人 高知県子ども会連合会



# 高子連だより

No. 69

令和2年10月10日発行

## 2020年度 第1回理事会・総会の開催

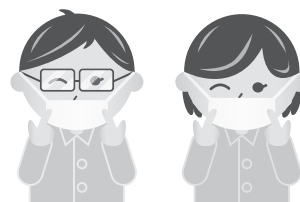
新型コロナウイルスが猛威を振るい、私たちの生活はもとより社会経済活動への影響は計り知れない状況となりました。総力を挙げて感染拡大防止に取り組む中、子ども会活動においても活動全般に亘り中止・自粛を余儀なくされる状態が続いています。

総会に先立ち書面決議にて行われた理事会では、第1号議案2019年度事業報告、第2号議案2019年度実施事業等会計収支決算報告並びに監査報告、第3号議案総会における議決権行使の方法（案）について審議が行われ、理事12名全員の賛成を以って原案が承認されました。

理事会での審議を経て総会も議決権行使書による決議が行われることとなり、第1号議案2019年度実施事業等会計収支決算報告並びに監査報告が承認されました。また、2019年度事業報告及び2020年度事業計画等についての報告が行われました。

いずれに措きましても、皆さんと顔を合わせた審議や意見交換が叶わなかったことは誠に残念ではありますが、新しい生活様式を模索しながら少しでも早く日常を取り戻せるよう手を携えて頑張りましょう。

マスクをしましょう





## 2020年度 運営方針

私たち一般社団法人高知県子ども会連合会（以下「高子連」）は、昨年度の創立50周年記念式典において「現在に適応する子ども会活動」の模索をお約束し、今年度新たな次代への一步を踏み出します。

高子連の基本理念である「地域の子どもは、地域で育む」、「子どもの手による子ども会」は守り続ける必要があります。それは、子どもたちが自然の中で遊ぶ体験、人との関わりの中で学び成長し生きる力を養うことが重要だからです。ただ、子どもたちの置かれている生活環境は、時間的な余裕のない生活実態となっていることも事実です。

高子連としましては、子ども会の大切さや目的を発信する取り組みを一層進める必要があると考えます。

昨年度、高知大学地域協働学部の協力を得て、同学部一回生60余名から「子ども会の今後の取り組み」について提言を頂きました。学校や学生を媒体とし地域を巻き込んだ活動などの提言が多くありました。これらの提言を整理する中で実現可能なものから取り組んでいきたいと思えます。

また、1年延期されることにはなりましたが、次回の中国・四国地区子ども会育成研究協議会が高子連主管で令和3年11月に開催されます。大会テーマを「なぜ、いま、子ども会なのか（いまこそ、いまだからこそ問う、子ども会の真の意義）」として、中国・四国地区の仲間が集い研究協議します。

これらのことを念頭に本年度は、

- ① 中国・四国地区子ども会育成研究協議会（高知大会）への取り組み
- ② 指導者・育成者・ジュニアリーダー・シニアリーダーの養成
- ③ 安全啓発（KYT）初級認定者の育成
- ④ 緑の少年団活動など親子行事の実施
- ⑤ マスコミやホームページを活用した広報の推進

に重点を置いた事業の推進を図りたいと考えています。

子ども会組織の根幹である単位子ども会の活性化なくして高子連の活性化は望めません。単位子ども会では、子どもたちが考え企画する事業を可能な範囲で計画していただければと思います。併せて、会員の皆様方のご参加ご支援をお願いいたします。また、各種研修会や行事には、周りの方々に一声かけていただき、仲間に参加していただくことにより、単位や地域の子どもの会の活性化に繋がるものと考えます。

新型コロナウイルス終息の先行きが不透明な中、計画通りの事業が実施できない事態となっています。子ども会活動におきましても感染予防を徹底していただき、安心安全最優先を心掛けていただくことを申し添えます。

結びに、会員の皆様方のご協力をお願いし運営方針といたします。



# 2020年度内の事業について

## ○ 高子連行事

高子連行事計画についての検討結果は以下のとおりです。

なお、新型コロナウイルス感染状況等により変更になる場合があります。

行 事 計 画	検 討 結 果
高子連事務担当者会	中 止
ジュニアリーダー講習会（7月19日、11月23日）	中 止
安全啓発初級指導者養成講習会及び認定審査会	中 止
第21回緑の少年団大会（10月18日）	中 止
高子連育成大会（11月8日）	時間短縮で実施（表彰式と講演のみ）
親子行事（ボウリング大会、2月14日）	実 施

## ○ 中国・四国地区子ども会連絡協議会開催行事

行 事 計 画	決 定 結 果
第48回中国・四国地区JL大会（徳島県）	来年度へ延期（日時未定）
第51回中国・四国地区育成研究大会（高知県）	来年度へ延期（11月予定）

## ○ 全国子ども会連合会開催行事

行 事 計 画	決 定 結 果
第54回全子連育成中央会議・研究会議（札幌市）	来年度へ延期（11月予定）



昨年度の高子連育成大会において、ご講演いただく予定でした  
高子連顧問大崎博澄先生の発表原稿を、ご寄稿いただきました。

ご熟読いただき、大崎先生が会員の皆様方に訴えたい  
想いを受け止め、今後の活動の一助としていただければ幸いです。

## 子ども達の健やかな成長のために

たんぼぼ教育研究所 大崎博澄

たんぼぼ教育研究所の大崎と申します。誌面をいただきありがとうございます。

たんぼぼ教育研究所は、子育てや教育、より具体的には不登校やイジメ、発達障害や精神疾患で孤立して苦しんでいる方々を、無償、無条件で支援することを目的とする、100パーセント私の個人的な活動で、市民の皆様の温かいご支援のおかげで、発足してもう十年以上になります。

この国の教育が全面的な崩壊に向かって雪崩を打っている危機的な状況にある今、子ども達の健やかな成長のために私達は何をすべきか、何ができるか、そのことについて私がたんぼぼ教育研究所で学んだことと、皆様が日ごろ力を尽くしておられる子ども会活動には、奇跡のように大きな接点があります。

そのことを皆様にお伝えすることに意味があると思いますので、貴重な誌面をお借りして、少しでもお話しさせていただきます。



その一つが、教育観の問題です。

この国の多くの親御さんや教育関係者は、テストで良い点数を取り、一流進学校、一流大学に進めば、それで教育は成功したとお考えです。現代の教育活動のすべては、そこに焦点が合わされていると言って過言ではありません。

さて、本当にそうでしょうか。私のもとには、一流進学校に合格した後、押し寄せる勉強、宿題の大波に途方に暮れるお子さんが沢山来られます。一流大学を出て、一流企業に就職して鬱々とした日々を過ごしている中年サラリーマンも来られます。こんなはずじゃなかった。自分らしい可能性を発揮する機会が無い。でも、これが現実です。

不登校は予備軍を含めると50万人以上、ひきこもりは推定100万人以上、イジメ、子どもの自殺、虐待、テストの点数を取ることのみを目指す教育の結果苦しんでいる人が今、巷にあふれています。有効な解決策はどこからも出て来ません。



私の教育観は、テストの点数は関係なし。どんな境遇に置かれても、置かれたその場所でささやかな幸せを見つける、温かい人間性を身に着けて人生を心豊かに生きる、それをベースに揺るぎない自分自身を確立する、そういう意味の生きる力を身に付けることに尽きます。

教育が子ども達の本当の幸せを目指すものであるなら、どちらが教育観として正しいか、たんぼぼでの10年に及ぶ活動が、明確なジャッジをしてくれたように思います。テストで良い成績を取めることのみを目指す教育では、子どもは生きる力を身に付けることはできず、幸せになることはできません。

たんぼぼで学ぶことができたもう一つの重要なテーマが、地域社会、コミュニティの持つ教育力の問題です。これは寡聞にして教育界で真剣に研究された例を知りませんが、もっともっと広く深く追究されるべき、重要な課題だと思います。

私が教育に深くかかわる入り口は不登校に苦しむ子ども達を救いたい、その一点でした。たんぼぼで不登校問題の追究に明け暮れる中で、私が子どもの頃、つまり今から65年前には、この国には不登校も虐待も子どもの自殺も存在しなかったことに気が付きました。では、この65年間で一体何が変わったのか。

家庭、学校、地域社会、この三つが子ども達が健やかに育つ環境の土台です。

その中で、家庭や学校が様々な問題を抱えていることは、実は昔も今も大差はありません。子どもをかえりみない飲んだくれの親も、子どもをいじめる不屈きな教員も、昔も今もいます。決定的に変わったのは、そういう家庭や学校の持つ弱さを補う教育力を持っていた地域社会のあり方です。

65年前、この国は貧しいけれども経済格差の小さな農業国でした。こういう社会では、人々は農作業でも、日常生活でも、子育てでも、自然に助け合い、固い絆で結ばれたコミュニティを形成します。これが群れを作って生きる社会的動物である人間本来の姿です。

そこでは地域社会が家庭や学校の教育力の欠落を補って、子ども達が社会から脱落していくことを食い止めてくれていました。私もまさしく、その恩恵に浴して救われた子どものひとりです。

その後この国は経済成長政策を取り、経済大国に変貌しました。経済成長政策は、金持ちをより金持ちに、貧乏人をより貧乏にするという弱点を持っています。経済格差は極限まで拡大しました。その結果、人々は憎み合い、ねたみ合い、地域社会のモラルは地に墮ち、治安は悪化し、人々の絆は跡形もなく崩壊しました。私達は今、お隣の子どもの名前も知らない、朝晩の挨拶も無い街に住んでいます。子ども達が社会から脱落するのを防ぐ防波堤は無くなりました。

子どもは本来、街や村の中で、街や村が育てるものなのに、経済格差の拡大という社会構造の大きな変化が、子ども達が健やかに育つ最後の砦を奪った。現代の教育崩壊の原因はここにあります。



さて、教育崩壊の原因は明らかになった。ただ、地域社会の絆の崩壊という事態は、相手が大き過ぎて、名も無い市民の手には負えません。

では、どうするか。この難題にヒントを与えてくれたのもたんぼぼの活動でした。

たんぼぼには、不登校、ひきこもり、家庭内暴力、精神疾患、発達障害、依存症、生活苦、ありとあらゆる悩みを抱えた人たちが来られます。

私は彼らのために力を尽くしますが、問題を解決できることは稀です。問題解決という物差しで測れば、たんぼぼはさほどの成果をあげることはできていません。

それでも、お客様は繰り返し電話をくれ、足を運んでくれます。彼らが私を見捨てることはありません。なぜか。私は彼らの苦しみを解決することはできなかったが、彼らの苦しみを理解することはできた。それが、彼らにとっても、私にとっても救いであり、支えであった。彼らと私は、知らず知らずの間に、たんぼぼという、少しだけ心の休まるコミュニティを形作っていたのだと思います。

さらに、私のこういうささやかなボランティアを伝え聴いた無名の市民達が、留守番を申し出てくれたり、野菜や食べ物を持参してくれたり、花を生けに来てくれたり、貯金箱を持って来てくれたり、市民の支援の輪がどんどん広がりました。少しだけ心の休まる場所は、心を病む人達だけでなく、健康な市民にも求められていた。これは新しい形の地域社会の絆、コミュニティではないでしょうか。

地縁血縁を基盤にしたかつてのコミュニティの再構築はもうできない。しかし、てんでんばらばらの私たちの住む社会でも、志を同じくする人達がそれぞれの場所、それぞれのやり方で小さな人の輪を無数に形成し、それぞれの輪がどこかで重なり合う、そういう形の新しいコミュニティ、地縁血縁をベースにしない、志をベースにしたコミュニティというものは構想できるかも知れない。たんぼぼは、新しいコミュニティへのアプローチを考える糸口になりました。

皆様の取り組んでおられるこども会活動は、子ども達に異年齢集団の中で、助け合い教え合って楽しく遊び学ぶという、現代社会で失われている貴重な成長の場を提供しています。さらに大事なことは、活動に参加する大人の絆の回復にも大きく寄与し、地域社会の教育力の回復、コミュニティの回復への展望を開いているのではないかとことです。

ここに、皆様のこども会活動と私のやってきたささやかな社会奉仕の奇跡的な接点があります。

子ども達にテストで点数を取ることを競う力ではなく、心豊かに生きる力を育むために、壊れた人々の絆をもう一度結びなおす多様なアクションを、全国津々浦々で展開していきましょう。崩壊するこの国の教育を救う道はほかにはありません。

## (一社) 高知県子ども会連合会

事務局所在地

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号

丸ノ内ビル3F

高知県社会福祉協議会分室内

☎ 088-855-5481 FAX 088-855-5481

編集 広報部 横山・宗圓・加藤

発行責任者 会長 杉村高晴

## 編集後記

新型コロナウイルスの感染拡大により、これまでに経験したことのない苦境に立たされています。今後は子ども会活動にも新しい活動様式を取り入れながら「ウイズコロナ」の時代に適応すべく、みんなで手を携え協力していくことによって、新たな発見が得られるかも知れませんね。